

# 「学校現場の『学級づくり』を支える教育センターの取組」

---

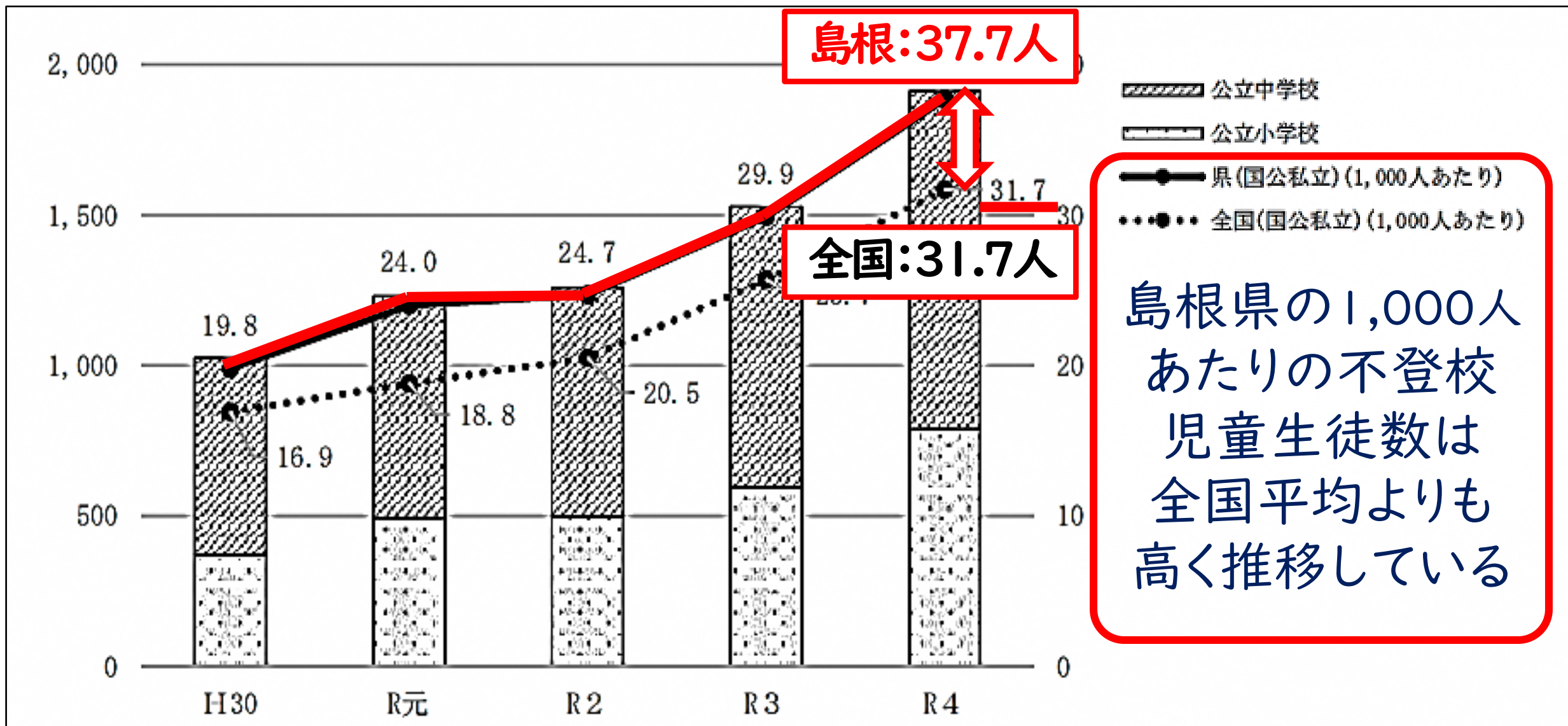
～スリンプル・プログラムのスムーズな導入に向けて～

島根県教育センター 浜田教育センター  
教育相談スタッフ 共同研究

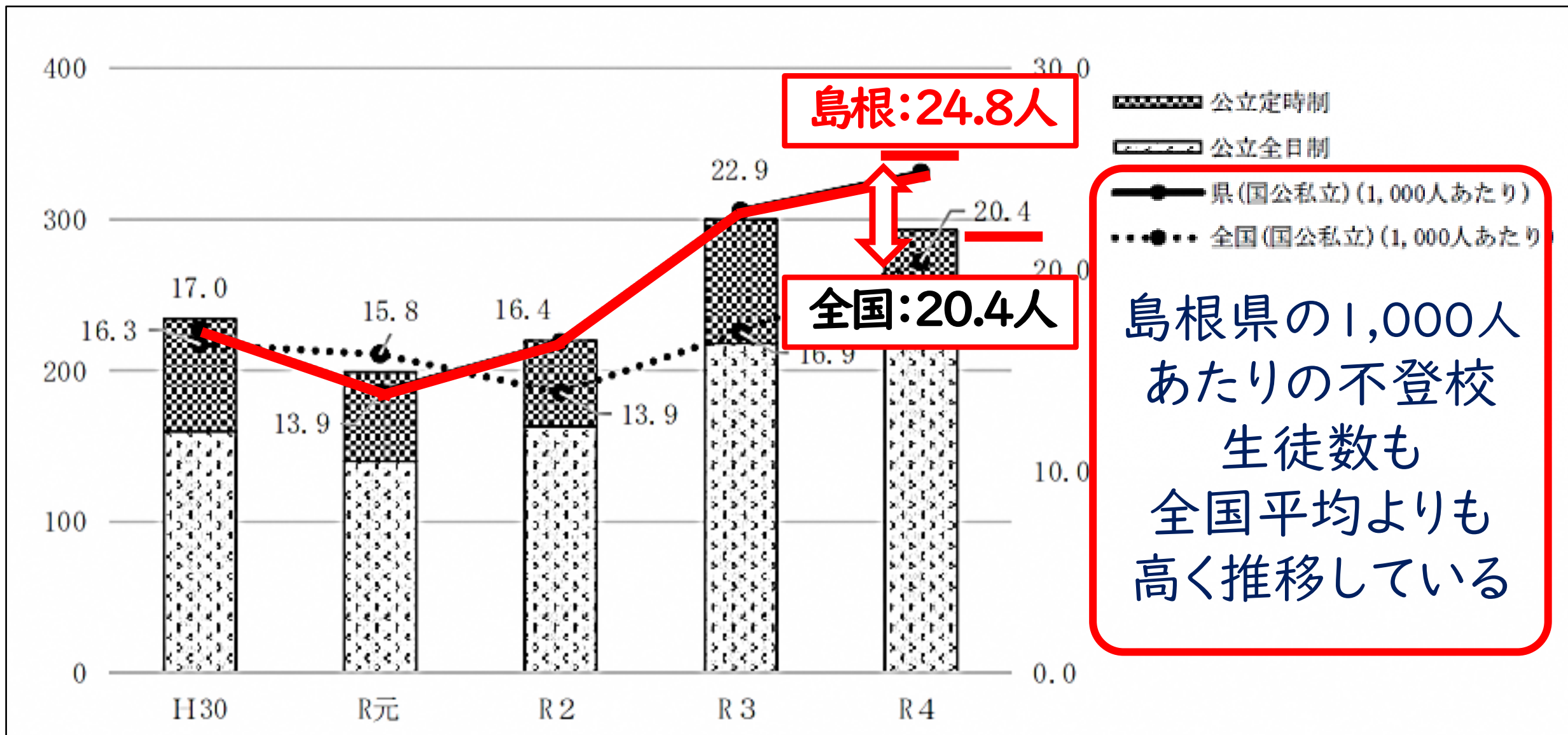
- 1 本研究のテーマ設定の背景
- 2 今年度の取組の計画と概要
- 3 先進校などの実践を訪ねて
- 4 2年次の研究の取組に向けて

# 本研究のテーマ設定の背景

---



令和4年度生徒指導上の諸課題に関する状況について(島根県教育委員会 教育指導課)



令和4年度生徒指導上の諸課題に関する状況について(島根県教育委員会 教育指導課)

【小学校・中学校の長期欠席のうち不登校の状況(公立)】

- ・公立小学校・中学校の不登校児童生徒数の合計は1,911人【+383人】
- ・1,000人当たりの人数は37.9人【+7.9人】。
- ・不登校児童生徒数、1,000人当たりの人数ともに**7年連続の増加**。
- ・**県内1,000人当たりの人数(37.7人)は、全国平均の31.7人を上回っている。**
- ・校種別では、小学校では788人【+193人】、中学校では1,123人【+190人】

【高等学校の長期欠席のうち不登校の状況(公立)】

- ・公立高等学校の不登校生徒数は293人【▲7人】
- ・1,000人当たりの生徒数は22.1人【▲0.4人】。
- ・生徒数、1,000人当たりの生徒数ともに微減に転じた。
- ・**県内1,000人当たりの生徒数(24.8人)は、全国平均の20.4人を上回っている。**
- ・定時制では減少に転じたが、全日制では3年連続で増加した。

## 生徒指導の構造（2軸3類4層構造）



生徒指導と言うと、課題が起き始めたことを認知したらすぐに対応する（即応的）、あるいは、困難な課題に対して組織的に粘り強く取り組む（継続的）というイメージが今も根強く残っています。しかし、起きてからどう対応するかという以上に、どうすれば起きないようにするのかという点に注力することが大切です。

時間軸に注目すると  
**2軸**

即応的  
継続的  
(リアクティブ)  
生徒指導

課題性に対応の種類から分類すると  
**3類**

困難課題対応的  
生徒指導

特定の児童生徒

一部の児童生徒

全ての児童生徒

対象

生徒指導の  
**4層**

第4層 困難課題対応的  
生徒指導

第3層 課題早期発見対応  
課題予防的  
生徒指導

第2層 課題未然防止教育

第1層 発達支持的  
生徒指導

いじめ対応 暴力行為 自殺予防 中途退学対応 不登校対応 性被害・性暴力  
具体的には・・・ アイコンをクリック！

いじめ、不登校、少年非行、児童虐待など特別な指導・援助を必要とする特定の児童生徒を対象に、校内の教職員だけでなく、校外の教育委員会等、警察、病院、児童相談所、NPO等の関係機関との連携・協働による課題対応を行います。

困難課題対応的生徒指導

課題の予兆行動が見られたり、問題行動のリスクが高まったりするなど、気になる一部の児童生徒を対象に、深刻な問題に発展しないように、初期の段階で諸課題を発見し、対応します。

課題予防的生徒指導：課題早期発見対応

全ての児童生徒を対象に、生徒指導の諸課題の未然防止をねらいとした、意図的・組織的・系統的な教育プログラムを実施します。

課題予防的生徒指導：課題未然防止教育

特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校教育の目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤となるものです。

発達支持的生徒指導

先手の取組が重要！

常態的  
先行的  
(プロアクティブ)  
生徒指導

発達支持的  
生徒指導

生徒指導提要における重層的支援構造

■ 島根県における教育の喫緊の課題である  
減らない不登校児童生徒数の現状



- 当センター相談室の教育相談につながるケースもある
- 「各学校で」個別ケースへの対応がなされている
- この現状を変えるため、積極的なプロアクティブな取組は？  
教育センターとして学校現場を支えるためできることは？

→ スリンプル・プログラム

スリンプルプログラムとは・・・

週1回短時間グループアプローチ  
〇〇タイム

ソーシャルスキル  
トレーニング  
「行動」の教育

構成的グループ  
エンカウンター  
「感情」の教育



各教科等の授業場面における  
ペア・グループ活動  
〇〇トーク

週1回10分~15分、かかわり活動（関係づくり）の演習を行う。  
⇒子供・教師が負担感を感じず楽しめる演習を、**スリム**に繰り返す。  
（年間4~5種類程度：「アドジャン」「二者択一」「私の四面鏡」「一分間スピーチ」等）

⇒**シンプル**なルールと型を繰り返すことで、「一枚岩」の実践に。  
**スリム+シンプル=スリンプル**

〇〇タイムで身に付けたスキルを授業場面につなげていく。  
例：「ペアで〇〇トーク開始！」  
「〇〇タイムのようにお互いの意見を聴きあおう！」  
「グループでの話の聴き合い方上手になってきたね！」

超多忙でも  
実践できる!

スリム&シンプルなプログラムで“かかわりの力”育成!

# スリム (Slim & Simple) ・プログラム

週1回10分の「〇〇タイム」で「かかわりの力」を育てる

名城大学教授 曾山和彦

スリンプルは、「週1回の短時間グループアプローチ」と「各教科等でのペア・グループワーク」の2つの柱からなる“かかわりの力”育成プログラムです。「生徒指導提要」(改訂版)で特に重視されている、すべての子どもを対象とした「発達支持的生徒指導」と「課題未然防止教育」を具体的に実現。すでに多くの学校で実践が広がっています。

おもな内容

- 第1章 今、一番のスリンプル・プログラム実践校
- 第2章 スリンプル・プログラムの概要
- 第3章 スリンプル・プログラムの基本展開と留意点

- 第4章 スリンプル・プログラムの実践校の取り組み
- 第5章 スリンプル・プログラムの効果検証
- 第6章 スリンプル・プログラムの実践動画



■マルチメディアで「いつでも」資料にアクセスができる利点



曾山和彦の『スリンプル・プログラム』

お知らせ かかわりプログラムSimple コンテンツ お問い合わせ

かかわりの力を「スリム&シンプル」に言む！



教育カウンセラー 曾山和彦

@kazu-sty  
かかわりの  
kazuSimple  
チャンネル

ホーム 動画 再生リスト

新しい順 人気の動画 古い順



ソロ研修91オニの心  
32回視聴・13日前



ソロ研修90スリンプル先進校  
86回視聴・2週間前



スリンプル01: スリンプル・プログラムとは?  
127回視聴・2週間前

プロアクティブに取り組める生徒指導を  
ニーズのある学校へどう届け支えるか



志は「幸せな学校・学級づくり」

スリム&シンプルな「Simpleプログラム」で子どものかかわりの力を育むことができます

※曾山教授の許可を得て動画を使用しています。

# 今年度の取組の計画と概要

---

■「教職員への意識調査」

→学校現場の教職員のニーズの把握

■能力開発講座に曾山教授を講師に招聘

→スリンプル・プログラムについての研修を実施

■先進的に取り組む学校や教育委員会へ取材

→長期に継続できている学校からエッセンスを学ぶ

→これから始める学校への取組のヒントを得る

## みなさんが感じている 学級づくり・仲間づくりに 関するアンケートのお願い

新任研修  
6年目研  
中堅研修  
共通調査

今回改訂された生徒指導提要にもあるように、「不登校」や「いじめ」などの未然防止への積極的な取り組みが喫緊の課題となっています。

浜田教育センター教育相談スタッフでは、2年間をかけて「導入しやすい学級づくり・仲間づくりプログラム」についての研究を進めていきます。より、学校現場の実態やニーズに合った取り組みができるようにしていきたいと考えています。ぜひ、みなさんのご意見をお聞かせ頂き、御協力をお願いします。

- 令和5年8月～9月  
新任・6年目・中堅研
- 「生徒指導・教育相談」  
講義受講者を対象に
- 任意での調査を依頼





## 【学級づくり・仲間づくりに関する調査】

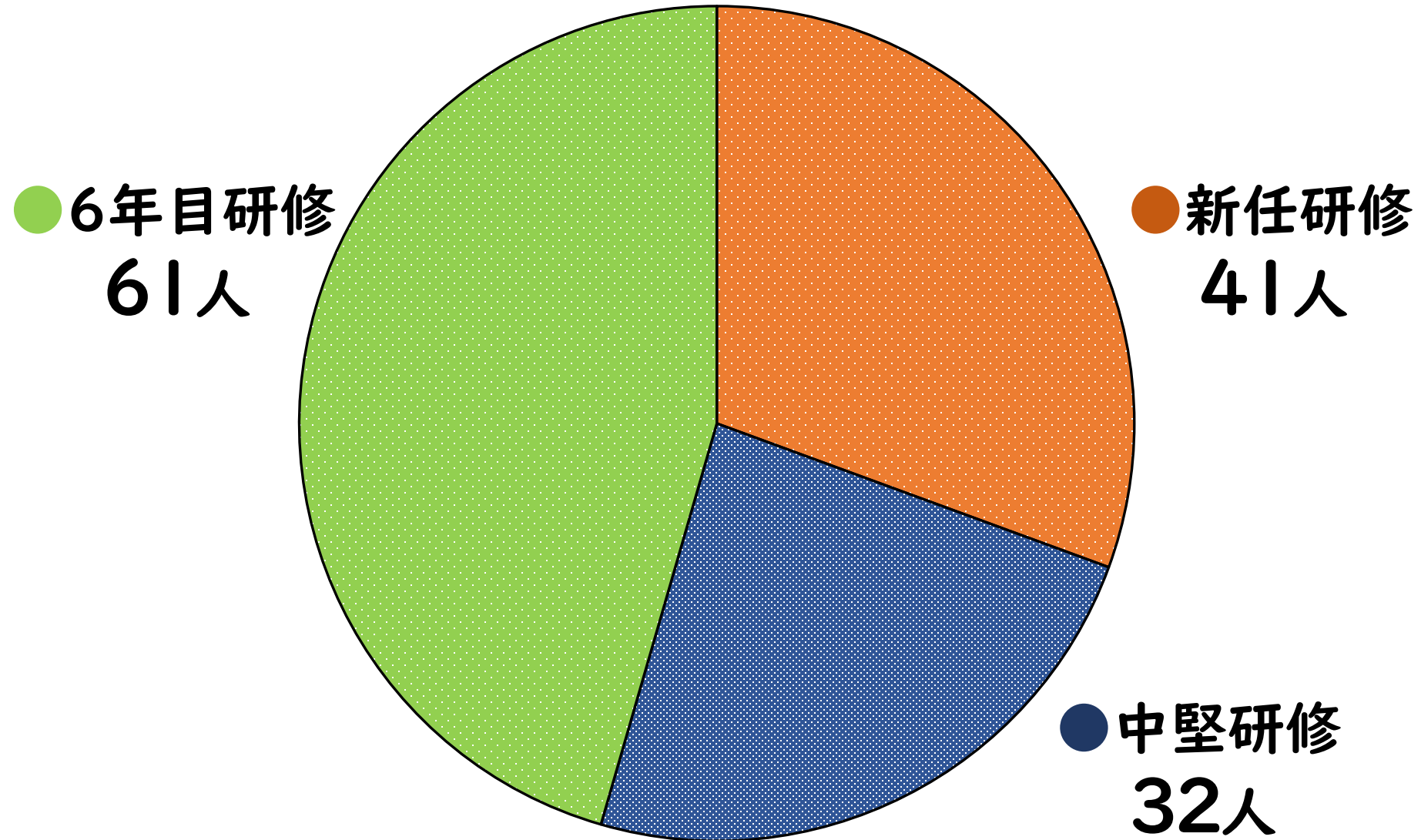
新任研/6年目研/中堅研/(共通)8月～9月期

■浜田教育センター教育相談スタッフでは、学級づくり・仲間づくりに関する共同研究(週1回10分で関係づくりができるプログラム:スリンプルプログラムの研究)に取り組んでいます。学校現場の先生方が感じている現場の課題や実態に即した研究 → 先生方のニーズに合ったプログラムの提供ができるよう アンケートにご協力をお願いします。

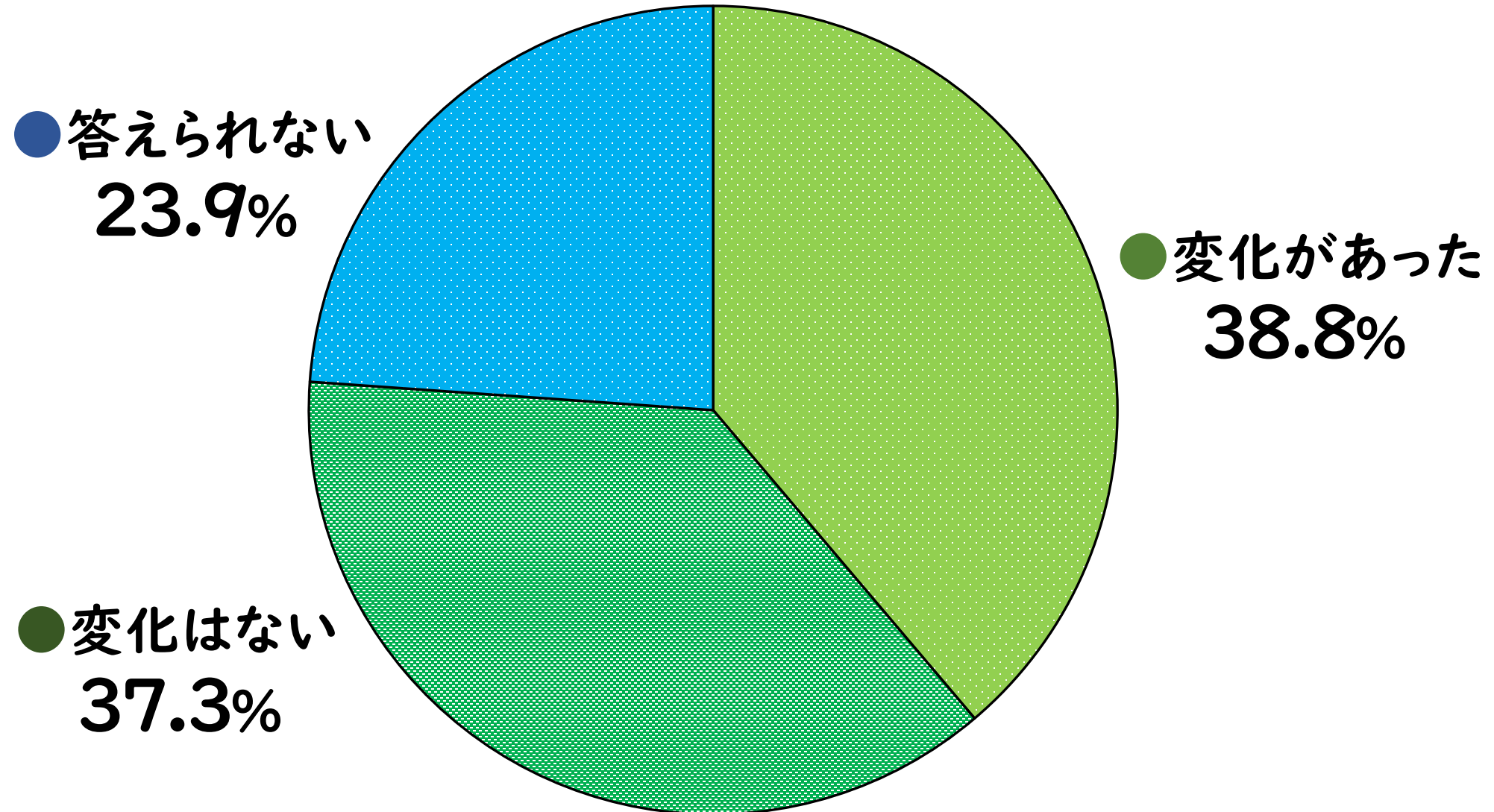
実際の  
質問項目は  
こちらから



■ アンケートへの回答者数と内訳(134人回答)



■問1：コロナ以前と比較して現在の学級集団が変化していると感じるか？



■問1で「ある」と回答された方、どのような場面でそう感じられますか？

席が離れているのが当たり前なので話し合いの雰囲気は…

いろいろなイベント事を経験していないので団結や盛り上げるなどが苦手なイメージがあります。

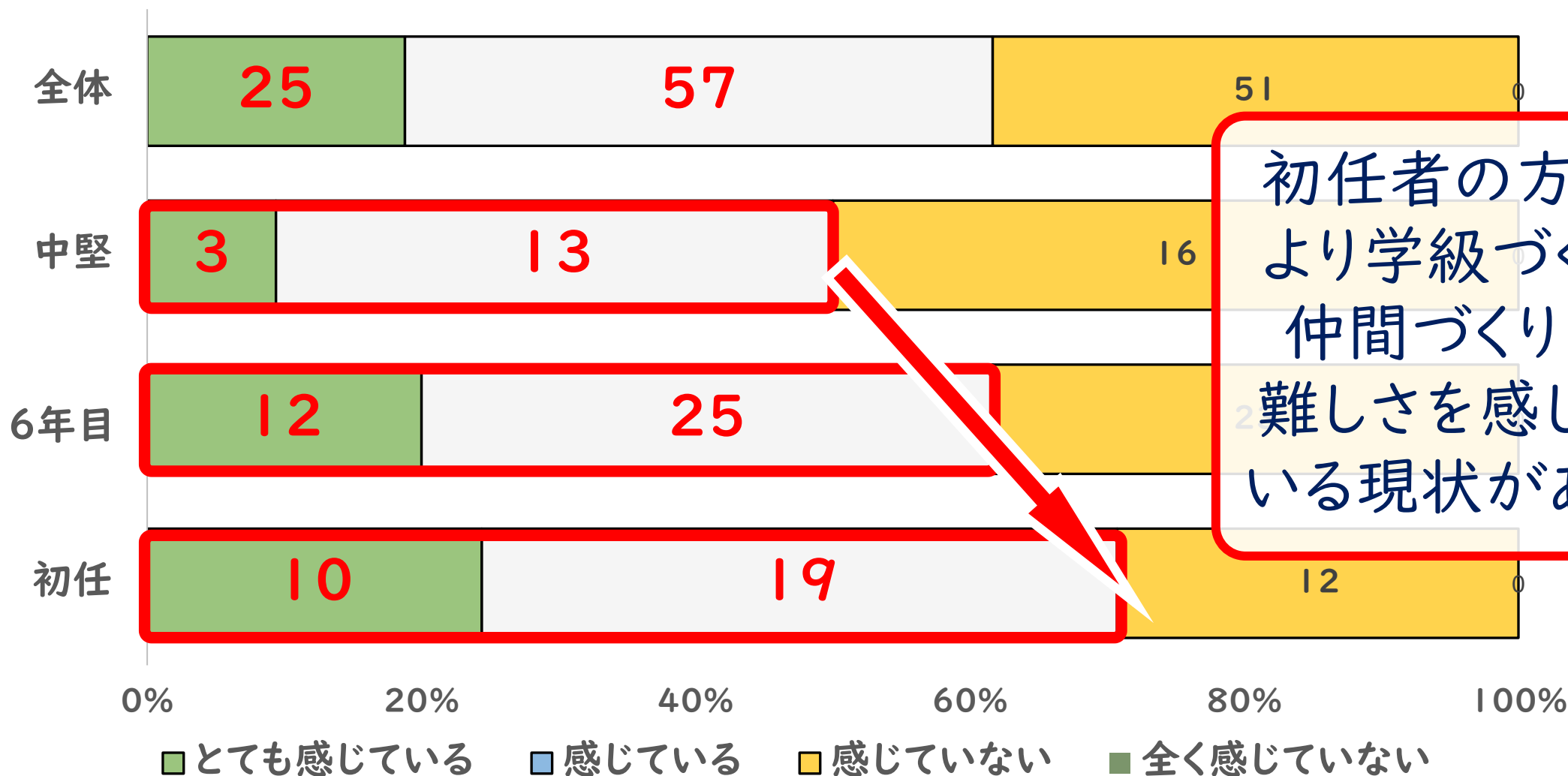
マスク越しで表情が読み取りにくく、生徒同士や生徒と教師間でもコミュニケーションが難しい場合がある。

小グループになり、そこから広げようとする生徒が少ない。仲良くない人とのグループに抵抗感がある生徒が以前よりも増えた。

マスクを外さない生徒が多く、中には素顔を見られるのが嫌で給食を食べない生徒もいる。

友達同士の距離感が遠い。黙食などの影響で会話が少なかったためか、お互いのことをよく知らない子が多い。

■問2: 現在、学級づくりや児童生徒の仲間づくりで難しさを感じていますか？



初任者の方がより学級づくり仲間づくりに難しさを感じている現状がある

## ■問2 難しさを感じておられるのはどんな点でしょう

学習規律を整えるための指導、お互いを認め合える仲間にするための指導や関わり。

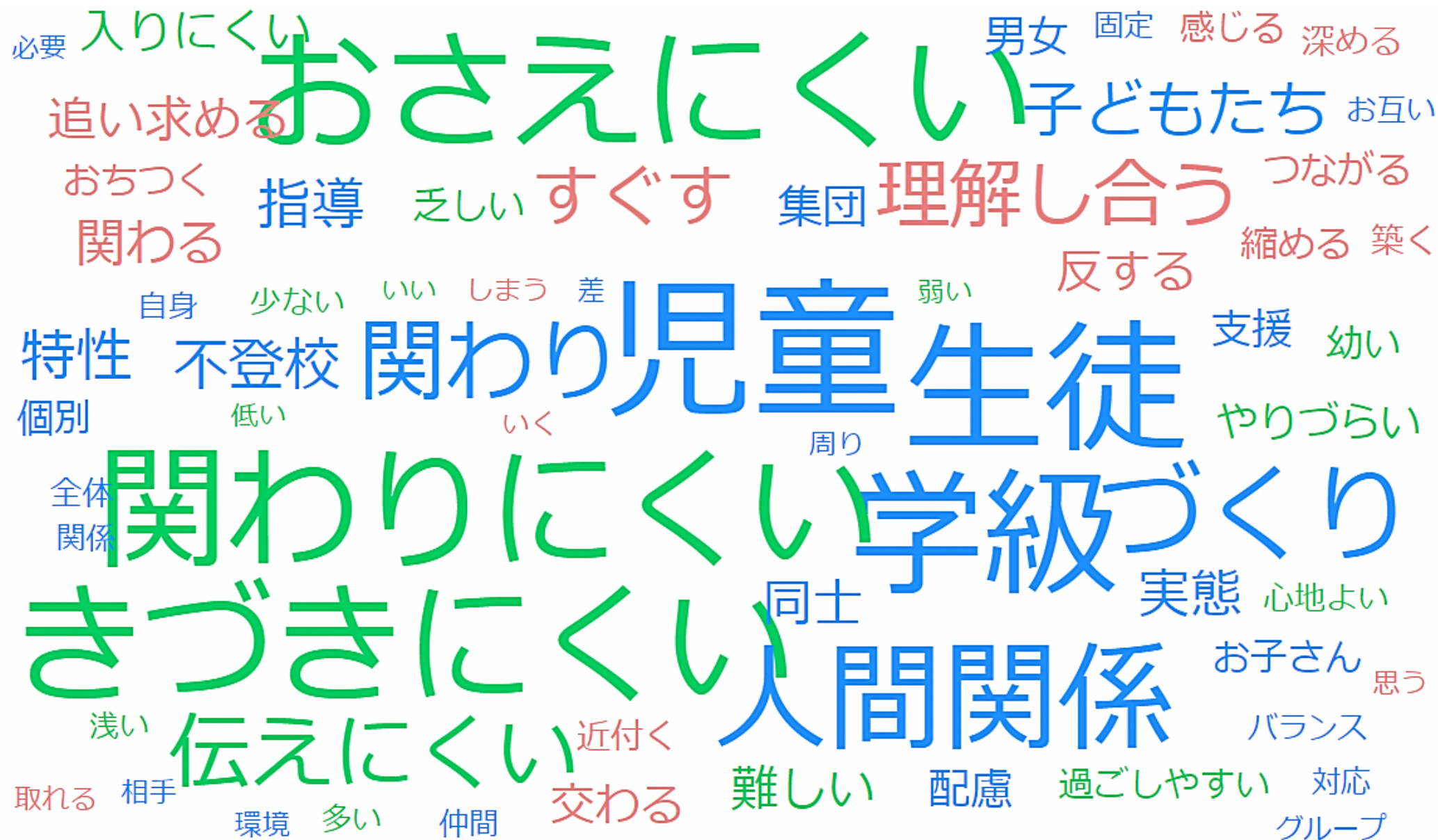
高学年ですが、人間関係が固定化されていて、ペアやグループ活動等がやりづらい。

生徒同士の間人間関係が広がらないところ(初めての人に対して全く話さなかったり、話題に困る様子があったりするところ)

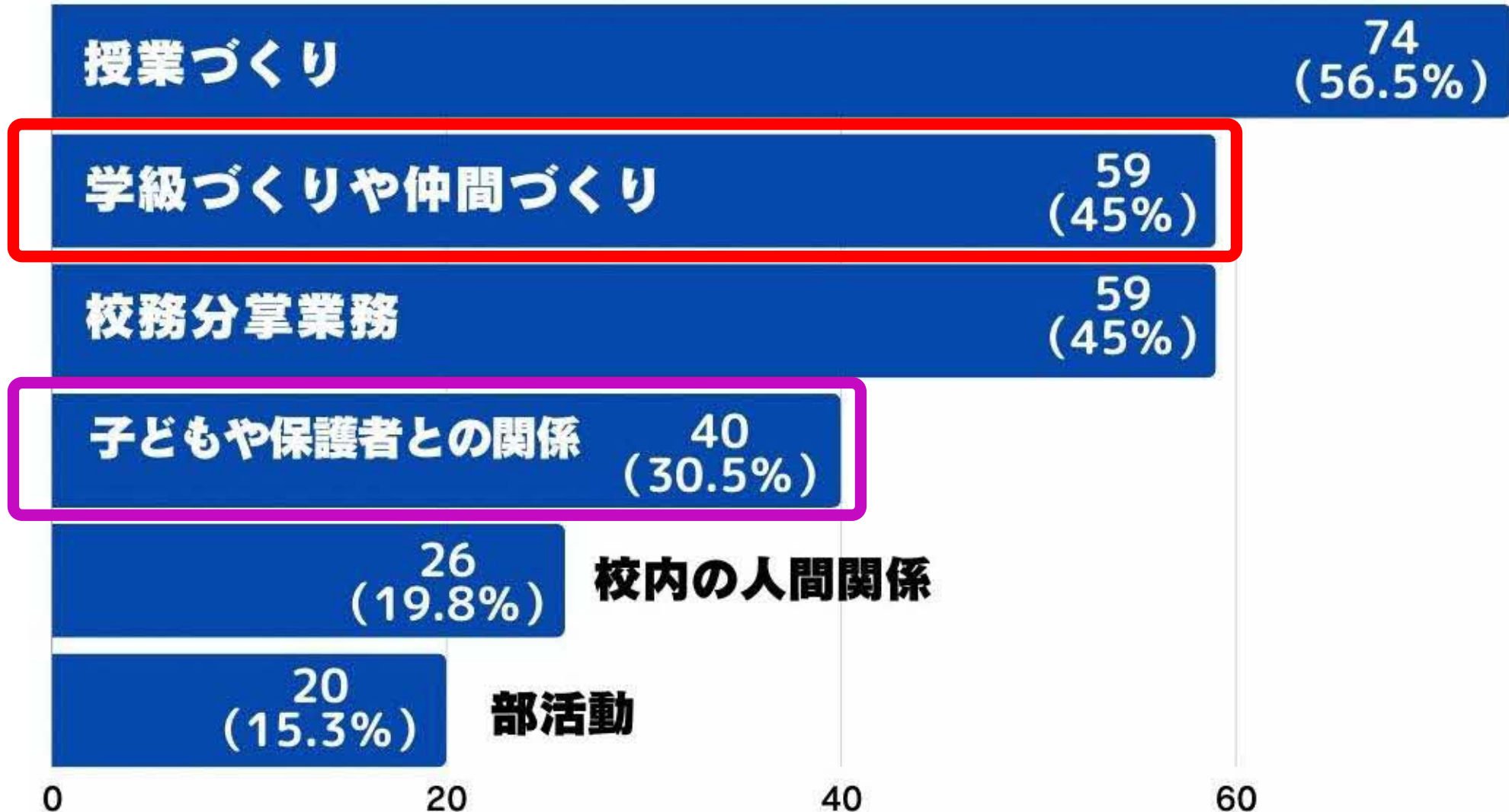
行事ごとなどのノウハウがないことの運営をしなければならぬこと。手探りでやらなければならぬことがあるのが大変。

個性の尊重と集団としてのまとまり両方を追い求める難しさ

どうしても、人にちょっとかいやイライラをすぐしてしまう子をどうすれば安定できるか、自信がもてるかが知りたい。



■問4:現在の業務上、「困っている」と感じられること(複数選択可)



## ■問4:現在の業務上、「困っている」と感じられること(経験年数別)

	初任		6年目		中堅	
①	授業づくり	24	授業づくり	36	校務分掌業務	18
②	学級づくりや 仲間づくり	20	学級づくりや 仲間づくり	35	授業づくり	15
③	子どもや保護者 との関係	12	校務分掌業務	31	校内の人間関係	12
④	校務分掌業務	11	子どもや保護者 との関係	19	子どもや保護者 との関係	9
⑤	部活動	10	校内の人間関係	8	学級づくりや 仲間づくり	4
⑥	校内の人間関係	6	部活動	6	部活動	4

### □「教職員への意識調査」

→学校現場の教職員のニーズの把握

### ■能力開発講座に曾山教授を講師に招聘

→スリンプル・プログラムについての研修を実施

### □先進的に取り組む学校や教育委員会へ取材

→継続できている学校からエッセンスを学ぶ

→これから始める学校への取組のヒントを得る

■能力開発講座 「学級づくり仲間づくり講座」  
のテーマを今年度はスリンプル・プログラムに

- ・令和5年6月28日オンラインで実施
- ・曾山和彦教授による講義と演習
- ・午前午後合わせて4時間の講座
- ・島根県内、鳥取、埼玉県から30名の受講者



講座のねらい

- ①実際の事例を通し、**学級づくり仲間づくりのポイントについて理解を深める**
- ②研修後に**学校現場で実践したい取組のアイデアを得る**

# ■能力開発講座の開設 | 「学級づくり仲間づくり講座」の評価 25

受講者に提示した この講座のねらい の達成度について	研修 の	そう思う (人・%)		少しそう思う (人・%)		あまりそう思わ ない(人・%)		そう思わない (人・%)	
① 実際の事例を通し、 <b>学級 づくり仲間づくりのポ イントについて理解を深 める</b>	前	6人	23%	17人	65%	3人	11%	0人	0%
	後	20人	76%	6人	23%	0人	0%	0人	0%
② 研修後に <b>学校現場で実 践したい取組のアイデ アを得る</b>	前	9人	34%	16人	61%	1人	3%	0人	0%
	後	21人	80%	5人	19%	0人	0%	0人	0%

コロナ禍で、人と関わる機会の多いはずの学校でも、関わりをもつ機会が希薄になってしまい、子どもたちは「友達と一緒に何かをする」ことを求めているんだなと知った。

現在「〇〇トーク」や「〇〇タイム」という名前で行う学校も増えている。そのやり方と効果、注意点について丁寧に説明していただきとても勉強になった。

自分の学級で週に1回〇〇タイムを取り入れてみて、自分で効果やエビデンスを確かめてみたいと思いました。そこから、その変化をまず学年部に共有したいとも思いました。

他の教員にも研修報告等で周知したいです。そして「かかわり」を大切にする教育活動を仕組んでいきたいと思います。

まずは自分の学級から始めてみて、少しずつ周りにも勧められたらと思いました。そのためにも、価値づけや意義を理解し、子どもたちへ伝えられるようにしたいと思います。

今の生徒の現状を見ていて必要な能力だとすごく感じる事ができた。自分にできるところで実践につなげていきたい。

# 先進校などの実践を訪ねて

---

### □「教職員への意識調査」

→学校現場の教職員のニーズの把握

### □当センターの能力開発講座に曾山教授を講師に招聘

→スリンプル・プログラムについての研修を実施

## ■先進的に取り組んでいる学校や教育委員会への取材

→継続できている学校からエッセンスを学ぶ

→これから始める学校への取組のヒントを得る

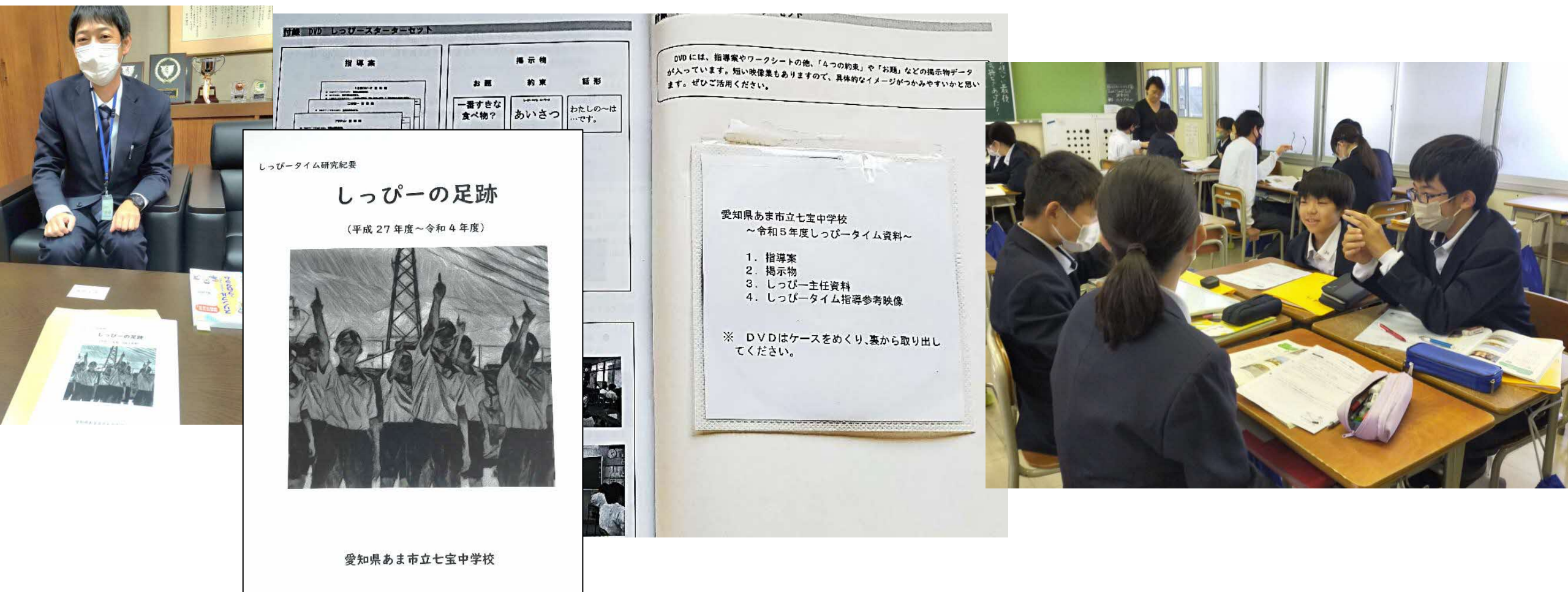
■ 今年度のスタートアップ校  
・ 益田市立東陽中学校

■ 島根県内市教委単位での取組  
・ 出雲市教育委員会  
・ 雲南市教育委員会

■ 他県の先進校の継続的な実践に学ぶ  
・ 愛知県あま市立七宝中学校  
・ 愛知県西尾市立一色中学校

# ■先進校などの実践を訪ねて | しっぴートークで展開される授業 30

## ■愛知県あま市立七宝中学校(しっぴータイム) スリンプル・プログラム実践の自主発表会も開催



## ■ 愛知県西尾市立一色中学校 校内授業公開と校内研修会に参加

一色中学校現職教育研修会

### 曾山先生から学ぶ

演題「確認! しおさいタイム」

名城大学教授 曾山和彦先生



テーマ

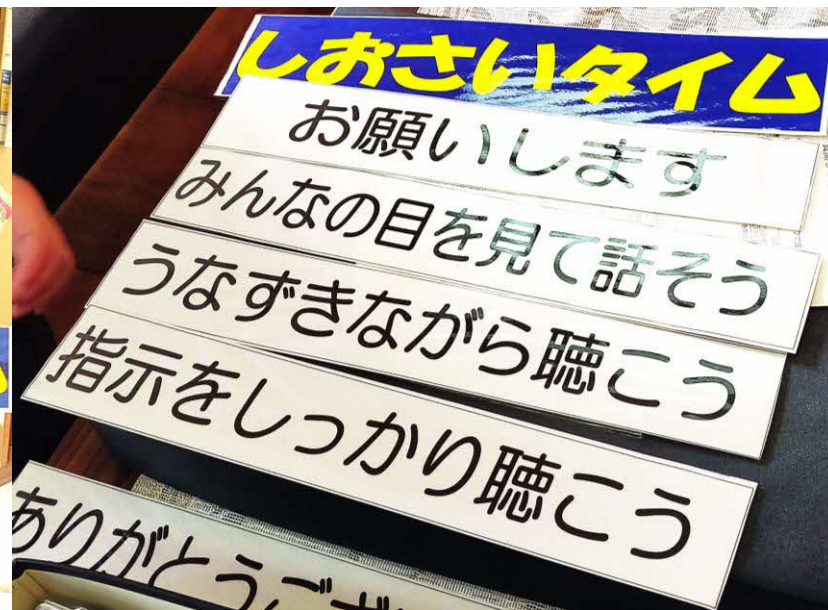
の思いをもち、自分の思いを語り、自ら動くしおさいの生徒たち」

かな人間関係を土台に、話し合いを大切にすしおさいスタイルづくりを通して～

11月29日(曾山先生)	
午前中は通常日課と同じ	
給食 短学活含む	12:30 ~ 13:00
◎自習・学活 しおさいタイム(全クラス)	13:25 ~ 14:00
5限	1年公開 13:25 ~ 14:00
	2年公開 13:40 ~ 14:00
	3年公開 13:55 ~ 14:00
2・3年下校	14:15 ~ 14:30
1年下校	14:20 ~ 14:35
3の6に移動	14:35 ~ 14:45
講演会 オンライン(Zoom)の予定	14:45 ~ 15:00




■ 愛知県西尾市立一色中学校（しおさいタイム）  
「しおさい部会」の活動について



自発的に募ったしおさい部会  
のメンバーが後方支援を

## ■ スリンプル・プログラムの継続の秘訣

- 
- ◆ 両校とも「〇〇部会」を設置
    - プログラムのメンテナンスと後方支援
    - 指導案のストックやデータベース化
  - ◆ 定期的な曾山教授によるスーパーバイズ
    - 新任者等への理解啓発（生徒へも）
    - 目的や理念の共有化を図る

# 2年次の研究の取組に向けて

---

## ■能力開発講座

「学級づくり仲間づくり講座」

来年度もスリンプル・プログラムを  
曾山和彦教授との対面講座で



令和6年度は **5月30日（木）**

浜田教育センター**集合型研修**

## ■市教育委員会の取組を引き続き学ぶ

- ・出雲市教育委員会
  - 特別支援の視点からの取組
  - だんだんタイムの成果の分析
- ・雲南市教育委員会



雲南市不登校対策プロジェクト(R4-R6)

## ■雲南市教育委員会（R4～R6の3年間）

### 令和5年度雲南市不登校対策プロジェクト

2023

雲南

◆学校が安全・安心な場となるための基礎的・基盤的取組みの充実

＊集団づくり、学級づくりの研修講座「曾山先生の研修会」研修会

（令和5年度 雲南市スーパーティーチャー活用事業による研修会）

① 演 題 不登校対応研修：

幸せな学校・学級づくりのための「スリンプル・プログラム」

ソーシャルスキルの定着・活用を通して「かかわりの力」を育む

② 講 師 曾山和彦氏 名城大学教授



③ 研修の概要：研修会では、曾山和彦先生を講師としてお招きし、師範授業と講義により児童・生徒同士のソーシャルスキルの育成を通じた「かかわりの力」を育む集団づくり、学級づくりの実践的手法について学びます。

第5回研修会：1月17日（水）：斐伊小学校（校区の中と全小学校）

13：40～ 受付（職員玄関）

14：05～ 授業（斐伊小・小倉教諭）「スリンプル・プログラム」

3年（教室）【10分】

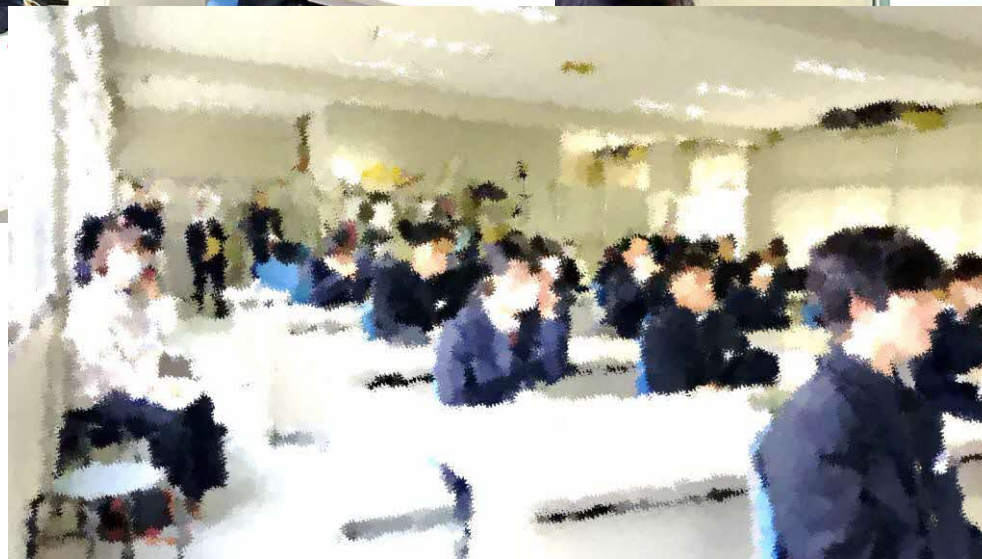
曾山先生による「スリンプル・プログラム」の意義について

3年（教室）【15分：自己紹介・説明含む】

14：50～ 曾山先生による講義（教職員向け）（ランチルーム）【70分】

1年間に基本4回  
曾山先生による  
中学校区で研修

# ■雲南市教育委員会（R4～R6の3年間）



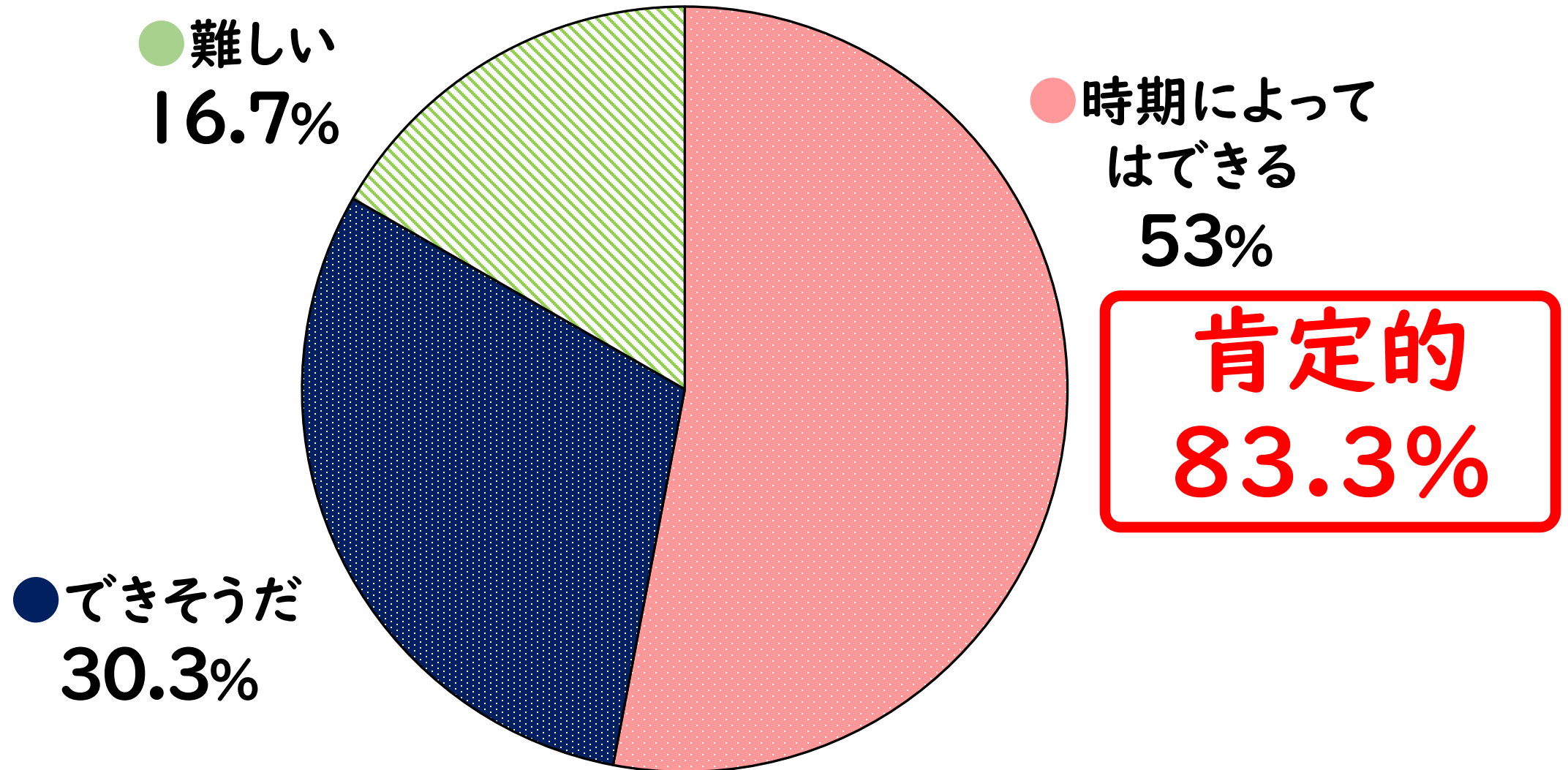
## ■学校現場へのスムーズな導入のために

- ・具体的な学校支援
  - 能力開発講座の実施
  - 先進校からの教材や資料提供も
- ・研究協力校や継続中の教育委員会と共に

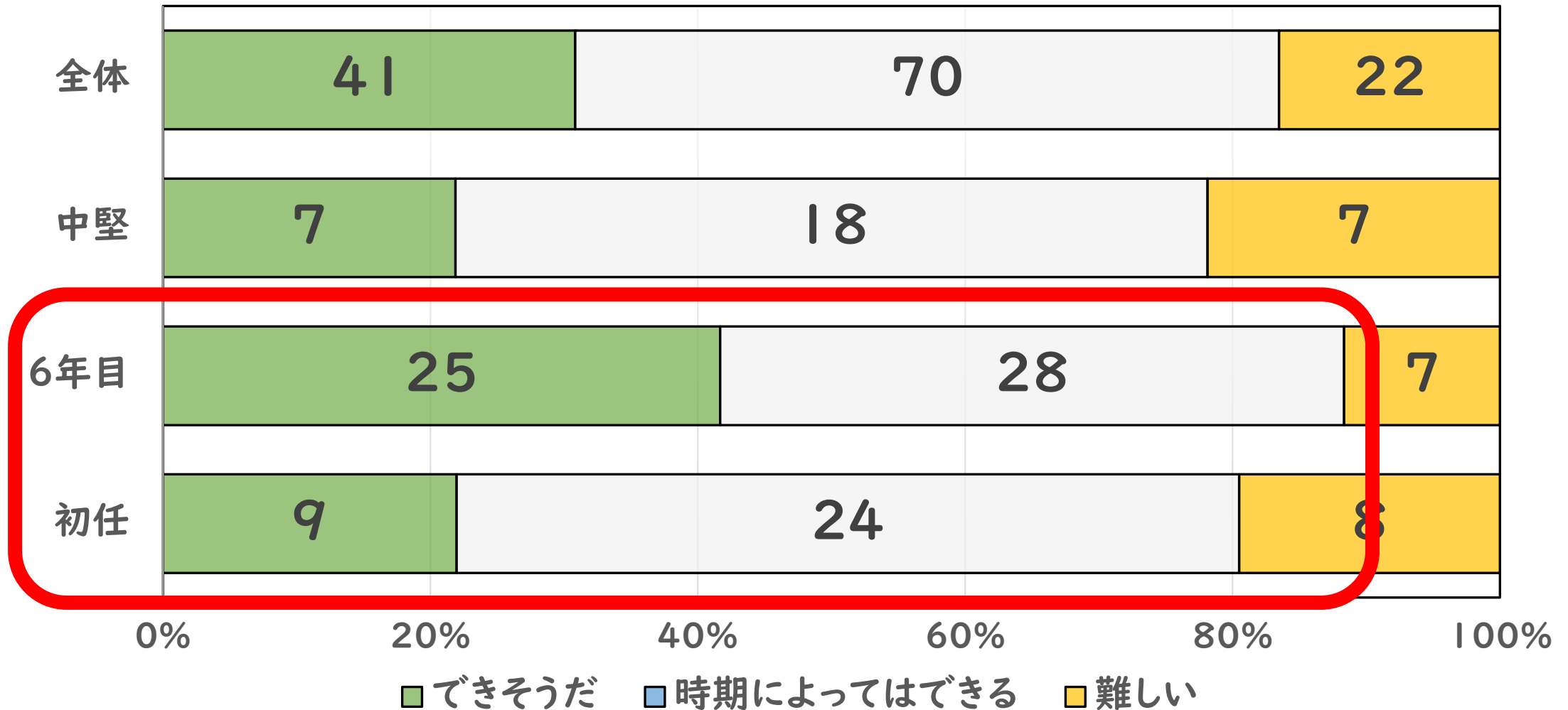


導入後の教職員の意識変化なども調査

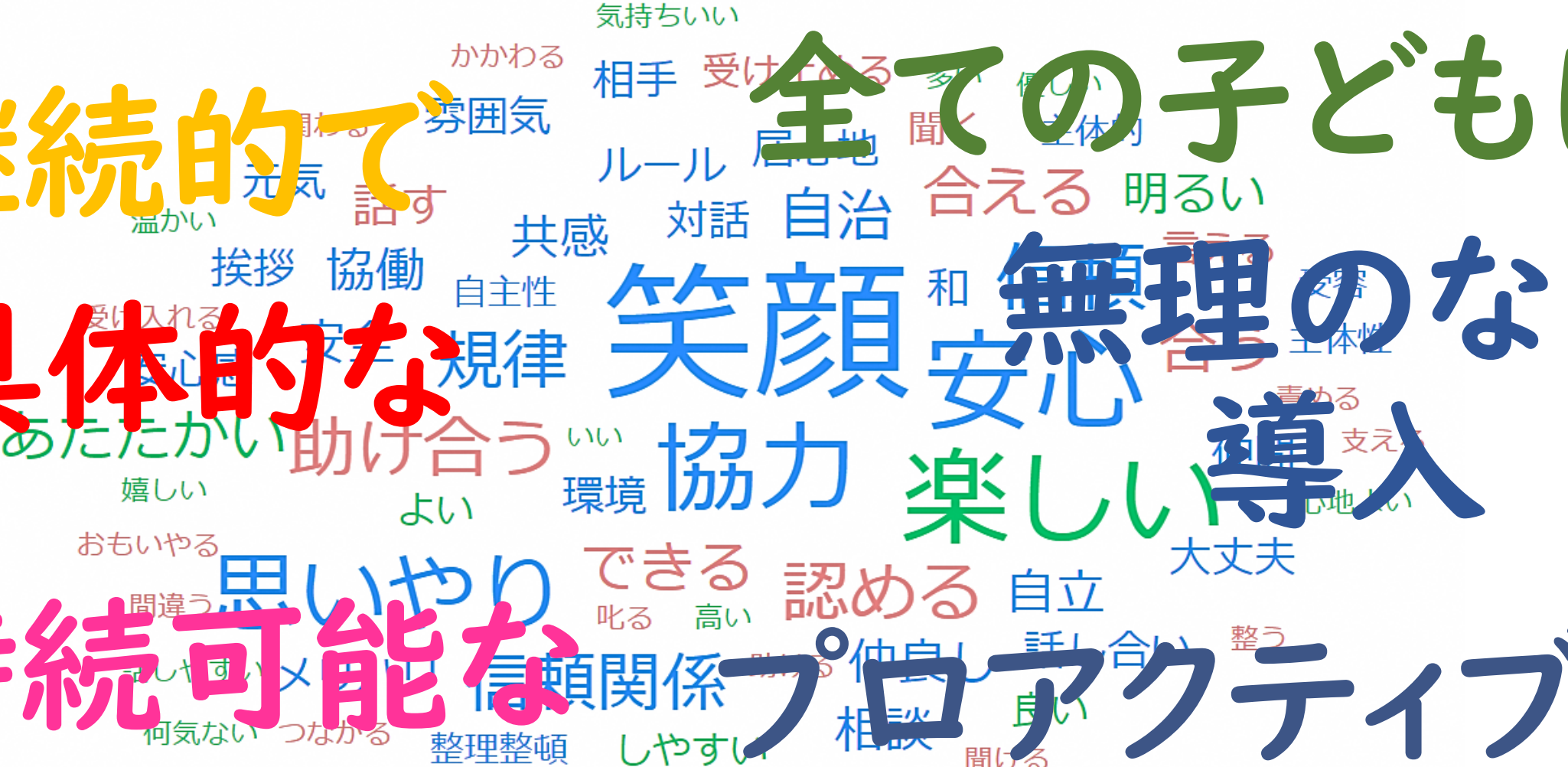
■問6 週1回10分間程度の「集団づくりプログラム」を継続的に実施可能ですか？



■ 問6 週1回10分間程度の「集団づくりプログラム」を継続的に実施することが可能ですか？



■問5「うまくいっている学級づくり」のキーワードとして考えられる「単語」を自由に、いくつでもお書きください



A word cloud of Japanese educational terms in various colors and sizes. The most prominent words are '笑顔' (smile), '安心' (peace of mind), '楽しい' (fun), '協力' (cooperation), '無理のない' (no unreasonable), '自主性' (autonomy), '規律' (discipline), '思いやり' (kindness), '信頼関係' (trust relationship), 'プロアクティブ' (proactive), '継続的' (continuous), '具体的' (concrete), and '持続可能な' (sustainable). Other visible words include '笑顔', '安心', '楽しい', '協力', '無理のない', '自主性', '規律', '思いやり', '信頼関係', 'プロアクティブ', '継続的', '具体的', '持続可能な', '笑顔', '安心', '楽しい', '協力', '無理のない', '自主性', '規律', '思いやり', '信頼関係', 'プロアクティブ', '継続的', '具体的', '持続可能な'.

継続的  
具体的  
持続可能な  
笑顔  
安心  
楽しい  
協力  
無理のない  
自主性  
規律  
思いやり  
信頼関係  
プロアクティブ  
笑顔  
安心  
楽しい  
協力  
無理のない  
自主性  
規律  
思いやり  
信頼関係  
プロアクティブ

■令和6年度に向けて | これからも、学校現場を支えていきたい!

## 「学校現場の『学級づくり』を支える教育センターの取組」

---

2年次は研究協力校や教育委員会等とも連携し、実践的に研究を進めていきます